

『成城文藝』本年度刊行分総目次
(自第二〇三号
至第二〇六号)

執筆者五十音順

【論文】

青木 健

十九世紀作家の権利意識(1)

——Sketches by Boz 出版から——

第二〇四号、一六〇～一四五頁

デイケンズと宗教教育

第二〇五号、一三八～一一五頁

荒畑 靖 宏

経験と世界への開け

——マクダウエルの「最小限の経験主義」のための存在論的前提

第二〇五号、一四～九二頁

脱自としての心的生

——ハイデガーとマクダウエルの「特異」な外在主義——

第二〇六号、一二六～一〇三頁

河合 大介

自律性から関係性へ

——インスタレーション・アートにおける観客の身体性——

第二〇三号、五三～三八頁

木畑 和子

東ドイツに帰国した亡命ユダヤ人(5)

第二〇三号、一〇七～八九頁

工藤 力 男

和名抄地名新考 (六)

第二〇四号、一〇一四頁

千足 伸 行

シニヤックとアナーキズム (2) …
《調和の時代》(上)

第二〇四号、一四四〇一八頁

小島 孝 之

中世私家集の断簡三種

——『公経集』・『道玄集』・存疑『親清四女集』等について——

第二〇五号、一〇一二頁

高田 宣 子

天才へのまなざし (1)

——ミナ・ロイが照らし出す一九一〇年代のアヴァンギャルドたち——

第二〇三号、八八〇七四頁

佐藤 憲 一

Charles Brockden Brown's Ormond and the Representation of
Cataract Surgery in the Early Republic

第二〇五号、九一〇七四頁

田 中 佳 佑

ペトルルカの文体模倣論とそのキケロー派論争への寄与

第二〇五号、七三〇五五頁

鶴見良次

ABCと聖書

——17世紀後半のイギリスにおけるアルファベット綴字教育

第二〇六号、一三六～一二七頁

植崎洋子

三善晃（一九三三～）におけるオペラ構想のゆくえ

——一九六〇年代後半の器楽作品と声楽作品の関係をめぐって

第二〇三号、七三～五四頁

東谷護

韓国「米8軍舞台」形成初期にみるKPKの特異性

第二〇四号、九三～八三頁

古田尚輝

『ゴールドラック』の残影

～アニメーションの大量輸出に関する一考察～

第二〇四号、一一七～九四頁

富山典彦

生き残りし者の声

——ソーマ・モルゲンシュテルンと他者の風景——

第二〇六号、一～一六頁

南保輔

教育効果特定の手がかりを求めて…

薬物依存離脱指導の観察と受講者インタヴューから

第二〇三号、一三八～一〇八頁

森田 孟

複眼による並置比較思考

——ヘンリー・ヴォーン小考（五）——

第二〇三号、一〇二七頁

工藤 力男

追求は異なる角度、視点から

——ヘンリー・ヴォーン小考（六）——

第二〇四号、一五〇四二頁

交通業界の日本語

——言語時評・十八——

第二〇三号、二八〇三六頁

固有名詞の普通名詞化語彙小考

——随想風に、袖珍辞書風に—— 続続

第二〇四号、八二〇五三頁

悩ましき〈の〉

——言語時評・十九——

第二〇四号、四三〇五〇頁

花と星へ 嵐と夜から苦悶に耐えて

——ヘンリー・ヴォーン小考（七）——

第二〇五号、一三〇四三頁

一語の時代

——言語時評・廿——

第二〇五号、四四〇五一頁

〈隠された宝〉へ向かって

——ヘンリー・ヴォーン小考（八）——

第二〇六号、一七〇六六頁

【エッセイ】

【研究ノート】

高木昌史

比較民話学とは何か

——その歴史・目的・方法——

第二〇六号、八七～九四頁

【講演】

石鍋真澄

ヴェネツィア、神の手で造られた都市

第二〇六号、六七～八六頁

【報告】

松田美作子

エンブレム研究の回顧と展望

——第8回国際エンブレム会議に参加して——

第二〇六号、一〇二～九八頁